

鳥取県福祉研究学会第11回研究発表会 発表要旨等一覧 H30.2.6現在

口述発表

No.	分科会・分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者
1	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系㊤)	1	ホール	10:30～ 10:50	スキントア・内出血発生アセスメント表を用いたケアの検討	離床や排泄援助など、身体に触れる機会が増える分、スキントアや内出血の発生は多くなる。これらは利用者にとって苦痛や痛みを伴うものであるため、予防のための介入が重要である。しかし、適切なアセスメントツールが存在しないため、発生件数の減少につなげることができなかった。今回、スキントア・内出血発生アセスメント表を用いて発生件数を減らすための取り組みを開始した。その結果と考察について報告する。	高野 将幸	社福) こうほうえん 介護老人福祉施設新しいなば 幸朋苑	-
2	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系㊤)	2	ホール	10:50～ 11:10	「食から始まった」 ～CVポートから経口摂取、寝たきり から車椅子生活までになった～	CVポート挿入した患者が発した「食べたい」の一言を否定せず、スタッフ全員で食べられるように援助し、完全経口摂取に移行することができた。体力もアップし、生活リズムが整い、良眠も得られるようになった。寝たきりから、車椅子を自走できるまでになり、排泄もトイレで行えるまでになった。	内藤 悦子	鳥取医療生協 鹿野温泉病院 2階病棟	原田 玲子 石田 敦美 山本 賢一 西村 智美 米原 ひろ子 小谷 樹美代
3	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系㊤)	3	ホール	11:10～ 11:30	「認知症ケアの向上を目指して」 ～職員の意識改革と接遇マナーへのア プローチ～	特養若葉台ひまわりチームは、認知症高齢者が多く在籍され、BPSDにより周囲との調和が取りづらい方も少なくない。このBPSDを緩和し、心穏やかに生活して頂く事を日々目指している。 しかし、現状として尊敬語や謙譲語だが素っ気ない、その場しのぎの対応も見受けられる。介護職員としての接遇力向上と認知症対応の教育という二本柱で取り組み、日常の接遇が利用者へどのように影響したのか把握し、職員の意識改革と行動変容に向けて取り組んだ2年間の結果を事例・職員及び利用者の変化とともに報告する。	中村 直哉	社福) 鳥取福祉会 特別養護老人ホーム若葉台	高山 孝 野村 智恵美
4	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系㊤)	4	ホール	11:30～ 11:50	歯痛くないですか ～利用者への理解を深める為に出来る こと～	加算取得のために、口腔ケアを実施してきたが、算定基準を満たすことだけでケアの質の向上には繋がっていない現状があった。口腔ケアのレベルアップに向けて取り組んだ一連のプロセスを報告する。	中嶋 大介	社福) やず 介護老人保健施設すこやか	岡崎 誠 浜岡 光広 國本 あずさ
5	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系㊤)	5	ホール	11:50～ 12:10	「グリセリン」は単独でも口腔内を保 湿させたか ～口腔乾燥のある高齢者に使用した結 果～	要介護高齢者が口腔乾燥状態にあると、飲み込みにくい、義歯の吸着が悪い、口内炎になりやすいなどのトラブルがおこりやすい。 口腔乾燥の原因は色々で、市販されている保湿剤に安価な物はなく、頻回に使用するには負担が大きい。そこで保湿剤の成分で入手しやすい「グリセリン」の単独での効果を検証した。	坂本 佳津子	社福) こうほうえん 介護老人福祉施設よなご幸 朋苑	-
6	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系㊤)	6	ホール	13:00～ 13:20	食事のあり方 ～1日2回食の取り組み～	延命治療として胃瘻栄養を選択する人が減っている中で、認知症の進行や脳血管障害により摂食機能の低下した入所者の経口摂取をどう考えていくかは介護現場でも大きな問題となってきた。1回の食事に時間を要し、消化管の蠕動も低下していることから空腹になる前に次の食事を摂るという状況で、人によっては1日3回食が負担となっている現状がある。そのような入所者の中から対象を選び、食事が付加食の検討により1日2回食の対応を行い、長期に渡って体重減少も少なく、栄養状態も維持できた症例を3例経験した。その中の1例について報告する。	清水 道浩	社福) 敬仁会 介護老人保健施設ル・サン テリオン	黒川 和成 谷口 由紀奈 大森 央絵

No.	分科会 ・ 分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
7	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系⑧)	7	中研修室A	10:30～ 10:50	「生きる力を支える」	1か月の入院により食べる喜びを忘れてしまったK様に、再び口から食べる喜び・生きる喜びを思い出していただくには、どのような支援をしたら良いか考えました。	トヤマ 富山 ヤスヲ 安孝	社福) みのり福祉会 インターグループホーム	養山 幸恵
8	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系⑧)	8	中研修室A	10:50～ 11:10	さかい特養ノーリフティング推進委員の取り組み ～持ち上げない・抱えないケアを目指して～	離職の原因となり、また日常生活にも支障をきたしかねない「腰痛」。その予防に向け、2016年に法人として「ノーリフティング宣言」を行った。 私たちの事業所でも「持ち上げない・抱えない」介助を実践するため、委員会活動を始め、研修の開催や福祉用具の導入および活用といった具体的な取り組みをスタートさせた。 この新たな取り組みがもたらす効果や定着に向けた職員の意識に着目し、その経過と結果について報告する。	イシクラ 石倉 ヲサタ 功太	社福) こうほうえん 介護老人福祉施設さかい幸福苑	-
9	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系⑧)	9	中研修室A	11:10～ 11:30	レベル0からの事故防止の取り組み	昨年報告した「転倒を繰り返す利用者の根本原因追及への取り組み」でレベル0が報告としてあがってこない現状が分かり、レベル1以上のヒヤリハット・事故防止に繋がっていないのではないかとという課題があがった。レベル0を増やす取り組みで、対策立案・実施からの検証で、レベル1以上のヒヤリハット・事故防止に効果が得られたので報告する。	シラノ 治部田 アキヲ 晃典	社福) こうほうえん 介護老人保健施設いなば幸福苑	-
10	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系⑧)	10	中研修室A	11:30～ 11:50	暮らしが見える記録を目指して	日頃、良いサービスを提供していても、正確に記録されていないれば継続的な介護に繋がらず、介護の質についても社会的責任を問われることになる。記録からその人の生活が見えてこない、モニタリングや計画書作成に活かしていないという現状から、アンケート調査などで課題抽出し、改善への取り組みを行ったので報告する。	タノ 高野 望	社福) こうほうえん 介護老人保健施設いなば幸福苑	-
11	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系⑧)	11	中研修室A	11:50～ 12:10	「調理新時代」 ～魅力ある職場をめざして～	あすなる会では法人開設以来、「地産地消」を意識した「自前調理」にこだわった食事を提供し、利用者をはじめとする多くの方々に喜んで頂いてまいりました。 しかし、近年では慢性的な職員不足が大きな問題となり今までのような食事を提供することが困難になっています。 そこで、人材確保とあすなる会ならではの食事サービスを維持することを目的に業務改善を行っています。	ヤマモト 山本 シマモト 志磨子	社福) あすなる会 美和あすなる	河村 真生
12	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系⑧)	12	中研修室A	13:00～ 13:20	手掌内のただれ汚れの改善を目指して	脳卒中後遺症により、手指関節に拘縮をきたしている高齢者の手掌内は、湿潤環境にあり、汚れが溜まりやすく、ただれなどのスキントラブルや、臭い等の問題が生じやすく清潔に保つ事が難しい。当施設では、日々のケアの一環として、古くから薬草として使用されてきたヨモギを利用して、手掌内の抗菌、消臭効果が期待できないかと考え、取り組み、状態の改善を目指した。	タニガハ 谷川 トモアキ 智章	社福) 賛幸会 特別養護老人ホームのではまゆう	-
13	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系⑧)	13	中研修室A	13:20～ 13:40	工作クラブ のれん制作 ～仲間と一緒に達成感を味わおう～	平成27年クラブ活動を設立して、クラブ活動の基盤を拡充していく中で、利用者間同士の交流を深めながら、一致団結して作品を共同でつくり大きな達成感を味わいながら仲間づくりを行なうものです。	フカイ 福井 テヅル 千鶴	社福) みのり福祉会 関金インターケアハウス	佐々木 笑佳

No.	分科会 分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
14	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系㊤)	1	中研修室C	10:30～ 10:50	個別機能訓練 症例紹介 ～装具なしで歩きたい～	F氏の「夜間トイレ時だけでも装具なしで歩いていきたい」との強い希望に対して、自宅での生活動作、及び動線の確認を行い、理学療法士により個別機能訓練プログラムを立案。実施した一連の経過を報告します。	カサヒコ 中田 仁子	社福) あすなる会 鳥取西デイサービスセンター	河口 始 福留 映子 佐々木 千賀子
15	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系㊤)	2	中研修室C	10:50～ 11:10	デイサービスセンターにおける認知症 高齢者への音楽療法の有効性 ～複合評価及び分析～	デイサービスセンターでレクリエーションの時間を利用し、音楽療法を取り入れた。対象者にあった音楽療法プログラムを作成・実施し、Dementia Care Mapping、Clinical Global Impression Improvement Scale、Wong-Bakerによるフェイススケールを使用し、効果を検証した。その結果、利用者の心地よい時間の増加、及び心身の状態の維持向上を図ることが示唆された。	ハシハラ 林原 美佳	社福) こうほうえん デイサービスセンターよなご幸福苑	-
16	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系㊤)	3	中研修室C	11:10～ 11:30	「家で暮らしたい」 ～その想いにどこまで寄り添えられるか～	精神疾患に加え認知症の進行により、在宅生活の継続が困難だったが、「家で暮らしたい」というA氏の想いに寄り添い、多職種との連携を図ったり地域の喫茶店の協力を得ながら支援した経過を報告する。	カネコ 金子 扶美子	社福) あすなる会 白兔あすなる居宅介護支援センター	倉谷 文朗
17	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系㊤)	4	中研修室C	11:30～ 11:50	認知症利用者にダンスを取り入れて ～炭坑節を利用して～	認知症対応型通所介護ダンスダンス近隣の地域では盆踊りに炭坑節を使っており、地域から利用されているご利用者にとっては馴染みの音楽と言える。そこで、炭坑節を利用中の体操の時間に用いることは適度な運動に繋がるのではないかと考えた。習慣的に運動できることにより、体組成に変化が見られるのではないかと考え、サービス提供時間に炭坑節を取り入れた運動療法の検証を行った。	マツモト 松本 光生	社福) 真誠会 富益しあわせデイサービス	中田 純平 遠藤 夏記
18	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系㊤)	5	中研修室C	11:50～ 12:10	「ゆりりん調査を活用したケアマネジメントの構築に向けて」	在宅介護で排泄の負担が増えると施設入所を考える家族は少なくない。今回、排泄に負担を抱え、ショートステイを利用している家族の排泄負担軽減に向けて在宅事業所で取り組んだ2事例を通し、居宅介護支援事業所としてケアマネジメントのあり方について報告する。	イケグチ 池口 宏明	社福) こうほうえん ケアプランセンターなんぶ幸福苑	-
19	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系㊤)	6	中研修室C	13:00～ 13:20	表情スケールの考案 ～状態変化の見える化と情報共有～	当施設では、ご利用者の状態変化をより分かりやすくするため、また誰でも簡単に評価ができ、情報共有が円滑化するよう「表情スケール」を考案し、実施している。今回、この評価方法の成果を検証し、今後の課題を考察したため報告する。	シマ 三島 美奈子	社福) こうほうえん 認知症対応型デイサービスセンターいしい	中谷 百合子
20	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系㊤)	7	中研修室C	13:20～ 13:40	「皆と一緒に起きて食べたい」 ～ある男性ご利用者様の思いと取り組み～	嚥下機能が低下されたご利用者様へ対し、姿勢の見直しやボタンプル運動を実施し、嚥下機能改善を図った取り組み。	カワハラ 河原 彩貴子	社福) みのり福祉会 デイサービスセンター三朝みのり	門谷 里美

No.	分科会 ・ 分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
21	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系⑧)	8	調理実習室	10:30～ 10:50	ノルディックウォーキングの取り組み ～楽しく歩こう！元気でいよう！～	利用者の多くが身体・生活機能の維持向上を目標とした訓練に積極的に取り組んでいる状況にあるが、自宅での生活を調査すると活動量が少なく不活発に過ごしている方が多い事が分かり、実施している訓練が在宅生活に活かされていないのではないかと感じた。また、歩行姿勢が前傾ですり足歩行となる方が多く、改善が必要と考え、アプローチの方法や支援への工夫を行った。	オカダ 岡田 常子	社福) 鳥取福祉会 鳥取市南デイサービスセンター	-
22	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系⑧)	9	調理実習室	10:50～ 11:10	タブレット端末の活用による離れて暮らす家族との情報共有の取り組み	タブレット端末とアプリを用いた情報共有の共同研究に参加し、県外で離れて暮らす家族と他職種とのリアルタイムな情報共有に取り組んだ。	タナカ 田中 浩樹	社福) こうほうえん 小規模多機能型居宅介護 デ イハウスじゅんぶう	橋田 浩一
23	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系⑧)	10	調理実習室	11:10～ 11:30	高齢者二世帯の在宅介護を支えるケ アマネジャーの役割	地域で暮らす高齢者二世帯を対象に、Zarit介護負担尺度・インターライ方式ケアアセスメントを実施し、在宅介護が継続できるようケアマネジメントを行った結果を考察した。	ハマグチ 濱口 和史	社福) こうほうえん ケアプランセンターいなば 幸朋苑	-
24	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系⑧)	11	調理実習室	11:30～ 11:50	通所リハビリにおける介護職員とリハ ビリ職員との連携	今回当施設において、通所リハビリにおけるレクリエーション活動の問題点が見直された。 当施設に勤務している介護職員とリハビリ職員が連携し、レクリエーションの問題点に改善が見られ、利用者にも良い反応が見られたため今回研究題材として取り上げた。	タニグチ 谷口 貴昭	医) 佐々木医院 介護老人保健施設はまなす	西村 亜実 森田 知恵
25	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系⑧)	12	調理実習室	11:50～ 12:10	ケアハウス入居者が自主的に取り組ん だ認知症予防活動をサポートして ～「頭の体操」の5年間の成果～	ケアハウスで、知的活動として頭の体操を行っている。過去5年間のMMSE (ミニメンタルステート検査) で頭の体操に参加している群と参加していない群それぞれ14名をMMSEを用いて比較したところ、頭の体操は認知症の予防に有効であると推測できた。その取り組みを報告する。	イシイ 石井 美香	社福) こうほうえん ケアハウスいなば幸朋苑	林 竜司
26	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系⑧)	13	調理実習室	13:00～ 13:20	おしゃべり人形と出会って ～その人らしい姿をもう一度～	当施設で会話ロボット(おしゃべり人形)を導入し、不穏の軽減や、抑うつ改善がみられ、生活意欲を引き起こし、生活状況の改善へと繋げた事例を発表する。	ツルギ 鷺谷 直樹	社福) 賛幸会 特別養護老人ホームはまゆ う	谷川 美和子
27	【第2分科会】 高齢者福祉 (在宅系⑧)	14	調理実習室	13:20～ 13:40	予防センター利用者における、応用歩 行運動がもたらす効果	介護予防センター真誠会にて立位での運動や歩行練習など転倒予防に特化したプログラム「歩こう体操」を作成し導入した。今回、「介護度により運動効果が変わるのではないか」という仮説のもと、「歩こう体操」導入前後での利用者の身体機能データを比較検証したが、身体的変化は得られなかった。しかし、転倒不安尺度において、改善・維持を認め、「歩こう体操」を行うことにより、心理的变化を得られることが示唆された。	スナハラ 砂原 仁	米子市弓浜地域包括支援セ ンター	角 佳奈 下村 朋加 萩原 みどり 小田 貢

No.	分科会 ・ 分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
28	【第3分科会】 障がい児・者 福祉	1	第1小研修室	10:30～ 10:50	暮らすこと ～精神科訪問看護におけるソーシャル ワーク～	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築において、精神科訪問看護は主要なサービスとして位置づけられている。そこに所属する精神保健福祉士として、担当患者の傾向、実践事例を振り返り、定義を鑑みることでソーシャルワーク介入の有効性を考察した。地域の中で精神障害を有する当事者が「暮らすこと」の意味を明らかにしながら、精神保健福祉士に求められていることを可視化する。同時に今後の可能性、課題についても述べていきたい。	アオキ 青木 ミキ 美紀	社医) 仁厚会 医療福祉センター倉吉病院 精神科訪問看護	森 隆治 飯田 真穂
29	【第3分科会】 障がい児・者 福祉	2	第1小研修室	10:50～ 11:10	「アセスメント」「個別支援計画」が 成長への証明書 ～支援するってどういうこと？ 試行錯 誤の取り組みについて～	支援や業務、事務処理に追われることが日常になっている昨今「アセスメント」「個別支援計画」作成の経緯を振り返ると、7年間の「分からなかったからこそ積み重ねてきた失敗」があった。また、障がいがある方の就労を支えていくことは、単一事業所では限界を感じている。「就労支援の見直し」の中で、明らかになってきた課題に向き合っていく。	オノダ 金田 マサヒ 将人	社福) 光生会 米子ワークホーム 就労移行支援事業	金田 智子
30	【第3分科会】 障がい児・者 福祉	3	第1小研修室	11:10～ 11:30	あなたが主役です ～利用者主体の営業を目指して～	利用者主体で喫茶の営業ができないか、これが「茶房あさひ」を開店した時からの課題意識であった。 この課題に応じるため、利用者と職員がチームを組んで地域のカフェ等の見学や調理・接客技術についてのモニター評価を経験していく中で得られたものは何か。そして、見えてきた更なる課題は何かを発表します。	フジワラ 藤原 ケイジ 敬司	社福) 鳥取県厚生事業団 障害者福祉センターあさひ 園	喜多村 佳恵 松本 浩美
31	【第3分科会】 障がい児・者 福祉	4	第1小研修室	11:30～ 11:50	長期間、施設生活をされている方への 気になる行動へのアプローチ	長く施設生活されている方の習慣化してしまった行動へのアプローチに挑戦し、行動の消去には至らなかったが、取り組みのなかで職員間で気づきを共有し、支援方法をまとめていった事例。	オクダ 奥田 ユウコ 裕子	社福) 鳥取県厚生事業団 鳥取県立鹿野第二かちみ園	-
32	【第3分科会】 障がい児・者 福祉	5	第1小研修室	11:50～ 12:10	「自宅で一緒に暮らしたい」という思 いに応えたい 障がい児支援を通して見えてきたこと	「自宅で一緒に暮らしたい」という母の思いに応えたいと、他職種と連携して解決策を探りながら乗り越えた2年間の取り組み。	ハシガキ 濱崎 アキミ 明美	社福) こうほうえん 訪問介護事業所なんぶ幸福 苑	-

No.	分科会・分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者
33	【第4分科会】 児童福祉	1	第2小研修室	10:30～ 10:50	里親制度をご存じですか？ ～里親と施設による「里親出前講座」の取り組み～	社会福祉法人鳥取こども学園と鳥取県里親会東部部会は、平成24年度から、「里親出前講座」を実施している。施設に配置された里親支援専門相談員が始めた里親の普及啓発活動は、里親会との協働により、現在に至るまで発展的に継続してきた。いま、社会的養護は、大きな転換期を迎えている。里親と施設は「子どもの最善の利益」のために車の両輪となって協力していく必要がある。本実践発表では、「里親出前講座」の5年間の取り組みを整理し、その成果と課題を示す。	シメズ 清水 アキコ 暁子	社福) 鳥取こども学園 乳児部	藤田 千里 村上 収 池田 晴隆 宮橋 佐和子
34	【第4分科会】 児童福祉	2	第2小研修室	10:50～ 11:10	より良いチーム環境をつくるために チーム力の構築を目指して ～自分の居場所みつけの大切さ～	チーム内における話し合いの中で、自分がチームから必要とされているのか、どのように発信したら良いかなど、不安な思いを抱えていることが分かった。より良いチーム環境の構築を目指すにあたり、自分や相手と向き合う時間に焦点を置いて実践を行い、一人一人の気持ちや感じ方にどのような変化が現れたかを明らかにする。	フナギ 船木 キコ 喜和子	社福) こうほうえん キッズタウン第2保育園	矢倉 美由紀 山本 浩 池信 喜美子 金口 奈未 斎木 みどり 徳田 博美 林原 真央
35	【第4分科会】 児童福祉	3	第2小研修室	11:10～ 11:30	食育を考える ～食事を通して伝わる心～	食事は子どもたちの成長に欠かせないものです。そして、毎日3回の食事は生活スキルと心を豊かにしてくれる“有効的な支援のチャンス”だと考えています。子どもに携わる職員たちの支援の方向性が一つにまとまる事で、この1日3回訪れる有効的な支援のチャンスが子どもたちの将来を明るく創り上げる“食育”になると考え、この度“食育”というものをテーマに青谷こども学園スズランホームにて取り組んできた内容を紹介させて頂きたいと思っております。	コバヤシ 小林 カヒロ 貴宏	社福) 青谷福祉会 青谷こども学園 スズランホーム	衣笠 藍
36	【第4分科会】 児童福祉	4	第2小研修室	11:30～ 11:50	子どもが主体的に活動できる環境について	家庭より園で過ごす時間が多い子ども達が少しでも家庭的な雰囲気の中で心穏やかに安心して過ごすことができるよう園全体で時間的、物理的、人的環境の視点から考え取り組み研究していった。	アシカワ 足川 ヤヨイ 弥生	有) 育成 外江保育園	森下 真由美 渡辺 正子
37	【第4分科会】 児童福祉	5	第2小研修室	11:50～ 12:10	「自分なり」に表現する子どもをめざして ～造形表現に大切な保育者のかかわりを探る～	子どもが自分なりに楽しく表現する力を育むために、保育者はどのようなかかわりが必要なのか。子どもが「楽しいな」「おもしろそう」「やってみよう」と意欲的に取り組もうとする姿(心情、意欲、態度)をどのように育んでいけばよいのか。環境構成の工夫や発達段階をおさえながら、日々の保育を振り返り保育者の資質向上につなげていくと共に自らの保育を見直す。	スガワラ 菅原 ミコ 美和子	社福) 鳥取福祉会 よねさと保育園	大呂 ゆかり
38	【第4分科会】 児童福祉	6	第2小研修室	13:00～ 13:20	子どもの体と心の健康を支える食育 ～保育園から家庭へ～	保育園では食育指導をしているが、保護者に浸透していない事からくる子どもの生活の乱れや食生活の乱れ等をどのように保護者に啓発していくか。 保育園での取り組みの状況や発信の方法を変えたことで見えてきた課題と成果。	ヤマワキ 山脇 ヒロ 浩子	社福) みのり福祉会 みのり保育園	金本 伸子 西本 由美子 清涼 亜紀子
39	【第4分科会】 児童福祉	7	第2小研修室	13:20～ 13:40	心身ともにたくましい子育て ～地域の自然環境を活かした体力作り～	園内外の環境を活かし遊ぶ中で、子どもの意欲を引き出し、体力の向上を図っていく。	マツノ 松下 アキ 亜紀	社福) あすなる会 鳥取あすなる保育園	岡野 汐莉 森本 幹江 山中 照子 桑村 文 岩見 幸 麻木 貴博

No.	分科会・分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者
40	【第5分科会】 地域福祉	1	ベッド・トイレ実習室	10:30～10:50	鳥取流安心生活総合支援ネットワーク形成事業に3年間取り組んで	地域・個人の福祉ニーズ把握のために3年間取り組んできた5つの取り組みについての内容、成果、課題を報告し、課題について今後への対応として働きかけの方法、支援の視点などを考察しました。	ヒロキ シンヤ 平木 慎也	社福) 若桜町社会福祉協議会	田中 一志
41	【第5分科会】 地域福祉	2	ベッド・トイレ実習室	10:50～11:10	「あったかハート♥おたがいさま事業」を通じた支え合い意識づくりへの取り組み	加齢や障がいなどにより、福祉ニーズがありながら地域から孤立した生活を送っていて、生活問題が潜在化している状況もある中、隣近所でのつながりも希薄になっているのが現状である。 鳥取県社会福祉協議会のモデル事業「あったかハート♥おたがいさま事業」の指定を受け、小地域の見守りや支え合い体制の強化のために取り組んできた活動を振り返り、住民の福祉意識を高めるために必要な視点や関わりについて考察する。	ケミコ エイコ 国本 英子	社福) 南部町社会福祉協議会	-
42	【第5分科会】 地域福祉	3	ベッド・トイレ実習室	11:10～11:30	上私都地区と大学生の交流がもたらした変化と地域共生社会への可能性	八頭町上私都地区では大学生との交流が地域の活力や連帯感の向上、愛着・誇りの高まりなどの様々な好影響を与え、要介護高齢者や障がい者の社会参加のきっかけとなっている。これは今後の地域福祉の方向性であるわが事・丸ごと地域共生社会の実現にもつながるものであると考える。取り組みを通じてもたらされた地域や学生の変化とその要因を明らかにし、そこから導き出される地域共生社会に向けて必要な取り組み、地域の活力の向上について考察する。	フジタ リョウジ 藤田 亮二	社福) 八頭町社会福祉協議会	宮崎 靖大
43	【第5分科会】 地域福祉	4	ベッド・トイレ実習室	11:30～11:50	あったかハート♥おたがいさま事業の取り組み	高齢化が進む中、他人事になりがちな地域づくりを地域住民が我が事として主体的に取り組むための仕組みを作り、地域全体で気になる人を見守り、支援する仕組みを作る事を目的にあったかハートおたがいさま事業に取り組んだ。見守り会議を年4回実施し、併せて支え合いマップの更新を行い、普段の見守り、助け合い、災害時の助け合いの構築を行い、誰もが安心して住みよい町づくりを行う。	ミツ タツ 三ツ田 達彦	社福) 湯梨浜町社会福祉協議会	-
44	【第5分科会】 地域福祉	5	ベッド・トイレ実習室	11:50～12:10	鳥取県中部地震等災害を経験した県内民生児童委員の今後の地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と災害に備えての取り組み ・鳥取県中部地震等の災害を経験してのアンケートから ・新たな100年へ踏み出す民生児童委員活動への提言 	マツダ ヨシマサ 松田 吉正	鳥取県民生児童委員協議会 地域福祉推進委員会	田中 壽人 谷村 操 山脇 猛男 白根 勝樹 池谷 泰一 徳尾 勝 長尾 正重 倉本 稔 森田 勝彦 河西 牧子
45	【第5分科会】 地域福祉	6	ベッド・トイレ実習室	13:00～13:20	「住み慣れた地域で住民が安心して暮らしていける町づくりを目指して」	<ul style="list-style-type: none"> (1) 住民の福祉意識向上に関する事業 (2) 見守りによるニーズ発見・小地域福祉活動の推進に関する事業 (3) 小地域福祉活動の発展、強化に関する事業 (4) 日常的なアウトリーチの推進 	カワムラ トモエ 河村 智恵	社福) 鳥取市社会福祉協議会 鹿野町総合福祉センター	岩谷 修
46	【第5分科会】 その他社会福祉領域	1	ベッド・トイレ実習室	13:20～13:40	「鳥取県における生活福祉資金貸付事業の分析」	本県における平成21年の制度改正以降の生活福祉資金貸付状況についての分析による、制度の今日的役割や今後の貸付需要等についての考察、および制度運用上等の課題や問題点の明確化。	アキヨシ ダイスケ 秋吉 大輔	社福) 鳥取県社会福祉協議会	國本 彰一 森 理江